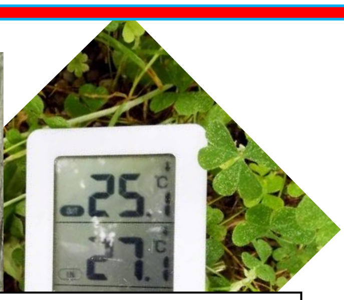
2022. 6. 20

Report from AKATSUKA PARK

赤塚公園武蔵野台地崖線植物モニタリング活動

●植物モニタリング活動　7月は 7/4、7/11、7/18　　9：00　ため池公園スタート
●赤塚公園ニリンソウを守る会　7月例会　7/10　10：00 大門広場
★いずれも、飛び入り参加歓迎！　雨天は小雨でも中止
＜問合せ：赤塚公園サービスセンター０３－３９３８－５７１５＞



温度計の表示は上段（地表面）25.1℃

大門の林は夏姿

熱中症予防サイトが「警戒」を示す

上の写真の右はデジタル温度計の表示ですが、下段が示す数字はケースの中のセンサーが感じた温度で、普通に人が感じる気温に近いものです。上段はセンサーを直射日光が当たらない場所の地表に近い草の上に置いて測った温度です。草の生えている地表面は温度が低いことが分かります。それでも、6/20 は 9:00 で 25℃を越えていて、今年いちばんの暑さでした。環境省の熱中症予防サイトではこの時間帯は黄色マーク、つまり「警戒」。今年のモニタリングでは初めてでした。

大門と城址をつなぐ陸橋から大門の林を撮影した写真の左が 5/9 撮影、右が 6/20 の撮影です。よ～く見ると遠方の樹木の葉色が若葉から本格的な緑へ（黄色円）、まだ赤茶色だった若葉がみどりの葉に（赤色円）に変わってきていています。赤塚公園の武蔵野台地崖線はすっかり夏模様になりました。

野草の大型化が目立ちます

ニリンソウシーズンには、大門地区の円形広場でいつもより大型のイヌムギが目立ちました（右）。

6/20 には異様に大きな葉を広げたヤブガラシに遭遇しました（左）。板橋区の東南に位置する石神井川緑道でも同じような「植物の大型化」がみられています。

ネジバナがあちこちで咲いています

今年は**ネジバナ**（右）の当たり年。先日の草刈りでかなり消えてしまった城址梅林下のネジバナは復活。この花、今年は他の場所でも、まちなかの街路にも見られます。ラン科の植物ですから、土壌にラン菌が繁殖していないと育たないのですが、高温多雨の気候がネジバナを元気づけているのかもしれません。同じ城址梅林下ではカラスビシャクが群落をつくって葉を伸ばしていました（写真なし）。この野草は展葉時期が遅いので、草刈りが行われたときにはまだ背丈を伸ばしていなかったのでしょう。

季節の移り変わりは早いものです

5/9 付けレポートで**シラカシ**が蕾をつけていると紹介しましたが、6/9 にはもう小さなどんぐりの赤ちゃんがなっていました→

←**ユズリハ**は新しい葉が十分に広がってから古い葉が落ちるので、親（先輩）が子ども（後輩）の成長を確かめてから世代を譲る代替わりのイメージで名づけられました。世代交代完了はもうすぐのようです。

植物紹介写真も夏～秋 102 種へ貼り替え→

大門地区の大きな看板への貼り付けはセンタースタッフが、ロビーの壁面への貼り付けはボランティア５人で行いました。貼り付け作業中、いくつかの間違いを発見。出来るだけ早い時期に直します。サービスセンターまでお越しの節は、ぜひご覧になってください。紹介している花と実は 102 種なのですが、実際にはもっとたくさんの植物が生きているのが都立赤塚公園です。

赤塚公園友の会関係団体・グループのご案内

●中央地区の花壇でもボランティア募集中！　NPO 法人いた・エコ・ネットのコットン（綿）畑

中央地区の花壇・ウエルカムガーデン（テニスコートの隣）でコットン（綿）の栽培中です。

収穫された茶綿は、赤塚公園のどんぐりまつりなどのワークショップ、板橋区エコポリスセンターのエコライフフェア夏、環境なんでも見本市でのワークショップなどで、コットン人形、マグネット、ストラップづくりに使っています。残った茶綿は、福島県いわき市の吉田恵美子さんが理事長の NPO 法人ザ・ピープルに里帰り、コットンベイブ（コットン人形）の材料に使っていただいています。

＜問合せは、NPO 法人いた・エコ・ネット　理事長・横山れい子さん　TEL：090-7223-4689＞